

第3回 校長会議あいさつ

R7.5.23 稲垣

日中は半袖の似合う陽気ですが、朝夕の風は、頬を心地良く撫でていきます。昨日から学校訪問が始まりました。本年度の授業づくりの要点については、昨年度来の校長会議に加えて、市教研総会においても、全教員に直接伝えました。各学校での取り組みを期待したいと思っています。

近年、カスハラが問題視されてきています。一般企業には、以前から専門部署を設けて対応しているところもありますが、官公庁においても対応が始まってきました。因みに、過剰要求やクレーム等に最も苦慮している公共機関の一つは学校だと思います。とりわけ義務教育を担う小中学校は、大変です。保護者のほとんどは良識ある方たちですが、一部の僅かな保護者によって、過大な労力を費やす事態も起きています。学校は、常に子どもの心情や健全育成を念頭に置いて、保護者の方とは何よりも信頼関係の構築に努めなくてはなりません。そこで、時には過剰な要求等にも寛容さをもって傾聴し、譲歩しながら対応するようにしています。しかし一方で、学校全体としての信頼感を維持していくためには、保護者全ての方に納得していただけるように、理に適った対応をしていかななくてはなりません。そのため、場合によっては、一部の保護者の要求に応えられないこともあります。その理由についてどれほど意を尽くして説明しても、ご了承いただけないことが稀にあります。いじめ問題の対処についても、国の指針が被害者サイドに偏り過ぎているため、この学校の苦悩は増大する傾向にあります。

「無理が通れば、道理が引込む」と言われますが、無理とは、他者の立場や心情を慮らない独断的な論理です。当然ながら、社会的な共感の得られるものではないはずです。ところが昨今、一部の人間の中に、大声を出して無理を通そうとする人が目立ってきました。窓口で怒声を発する人もいれば、執拗に電話してくる人、SNSを介した大声もあります。また、残念なことに、その無責任な大声に雷同してしまう風潮もあることが、昨今の社会事象として現れてきています。今や物事の本質や真実の共有が、危うい時代となりつつあるようです。教育に携わる私たちは、改めて姿勢を強く正す時です。学校においては、物事に対する善悪適否に対して、確固たる教育理念をもって臨み、子どもたちが本気で取り組む学校行事や体験的な学習を通して、健全な判断力を育てるとともに、子どもたちが氾濫する情報に惑わされることのないように、メディアリテラシー教育を実践していただきたいと思っています。